街を映し、あたらしさを発信する窓

GINZA WINDOW

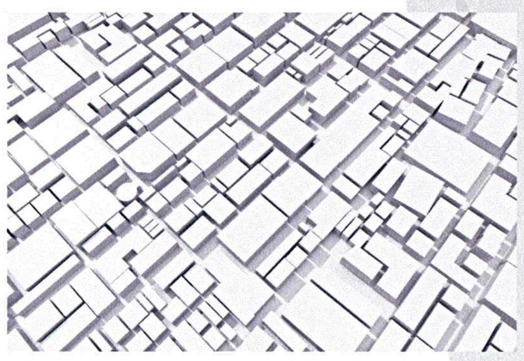
広告を活用した情報発信空間

トレンドの街、文化の街、「銀座」。「新しいことが伝統」の街の駅に相応しい、新鮮で感性を刺激する駅空間を提案する。駅構内にショーウインドウを設置、広告を整理し、コンペ形式で募ることでクオリティを上げ、銀座の今を反映した上質な情報発信空間とする。

街の構造を反映したわかりやすい地下空間

銀座駅は、路線・駅通路・地上の主要道路がリンクした構造になっている。空間を整理して視界を広げ、サインとラインカラーの活用により、駅構造を顕在化し、地下でもこの構造をイメージできるようにすることで「わかりすさ」を最大限に高める。

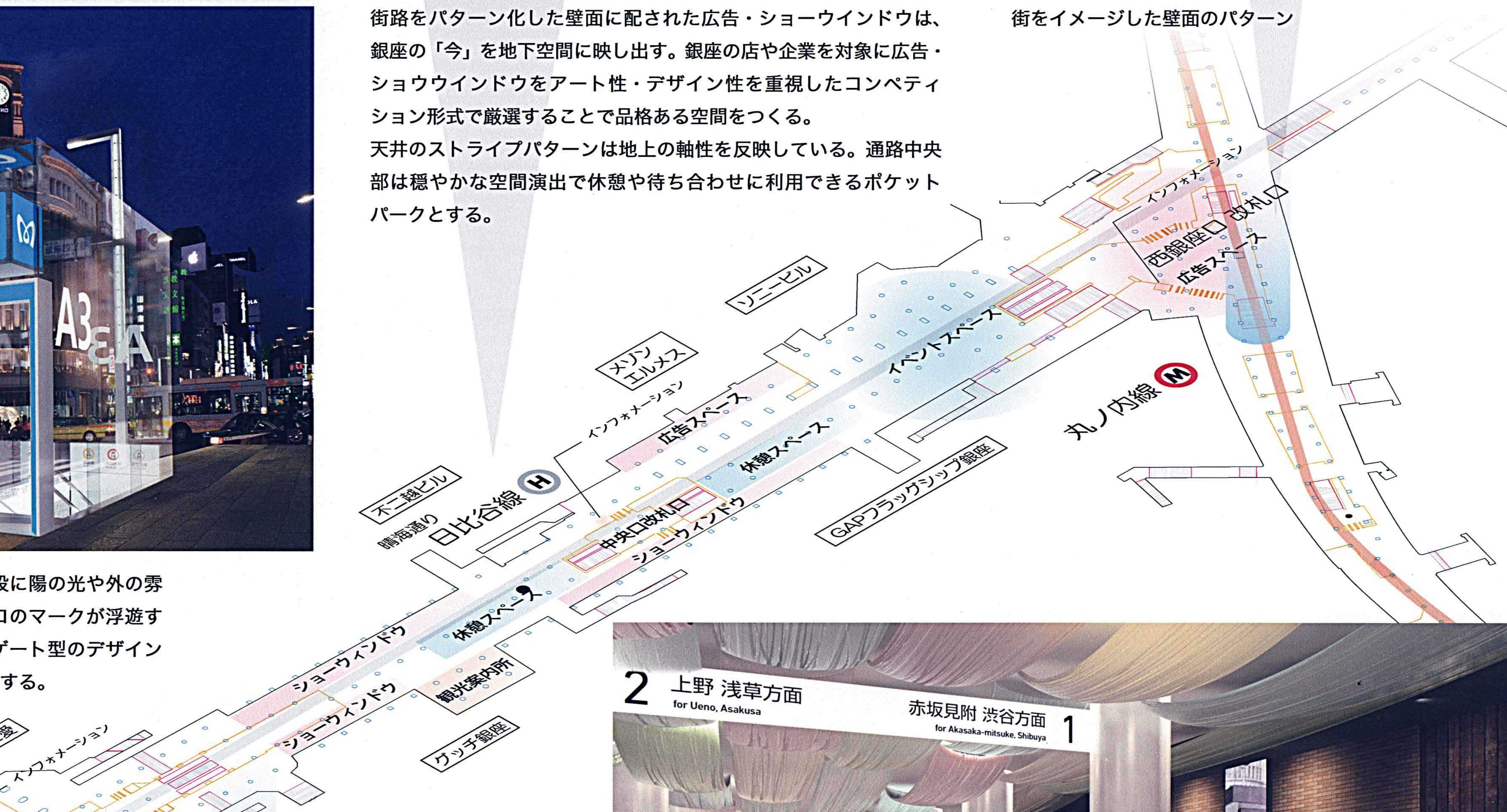
地下空間は視線を遮るものを通路内から極力廃し、視界を確保する。改札の柵はガラスで透過させ、ラインカラーで囲うことで各路線の乗り場が一目でわかるようにする。広告類は壁面や柱のスペースに移し、内容にテーマ性や基準を設けることで広告による美しい空間づくりを行う。



街をイメージした壁面のパターン

街路をパターン化した壁面に配された広告・ショーウインドウは、銀座の「今」を地下空間に映し出す。銀座の店や企業を対象に広告・ショウウインドウをアート性・デザイン性を重視したコンペティション形式で厳選することで品格ある空間をつくる。
天井のストライプパターンは地上の軸性を反映している。通路中央部は穏やかな空間演出で休憩や待ち合わせに利用できるポケットパークとする。

上屋はガラス構造とし、駅から地上に上がる階段に陽の光や外の雰囲気を取り入れるデザインとする。内部にメトロのマークが浮遊する演出や、出入り口はメトロカラーに発光するゲート型のデザインにより、地下と地上を繋ぐ門として象徴的に演出する。



来訪客を迎えるプラットホームは銀座の歴史と未来を対比させた印象的な空間とする。対向壁側は、地下鉄開業からの歴史的な趣を演出するスクラッチタイルと枕木による落ち着いた雰囲気を演出し、ホームは「未来の上質感」をコンセプトとした五感を刺激する演出を行う。天井は半透明の布素材を配置し、新鮮な空気を循環させることで色彩が重なりゆらめき、空間の表情を変化させる。柱は透明素材を重ね、光がにじんだような不思議な存在感を表現する。

STORY

国際社会で将来働きたい女子高校生

去年NYでホームステイした家族が遊びに来る。幼い頃からなじんだ銀座の街を案内したいし、駅も新しくなったと聞いて、下見に来てみた。電車を降りると、壁はなんだか懐かしい雰囲気なのに、ホームはオシャレな色の布が風にそよいで、柱も幻想的に光っていてなんだか未来の駅みたい。改札にはインフォメーションが併設されていて、ガイドブックをもらえた。スタッフは多言語対応で観光案内もしてくれるそうなのでうれしい。コンコースを歩いているときれいなショーウィンドウや広告が立ち並び、表通りを歩いているようでとても楽しい雰囲気。気になるウインドウのお店は後でのぞいてみよう。通路は広くて迷わないし、中央は休憩できるスペースもある。イベントをやっている広場もあって、まるで街みたいだ。地上への階段を上がると、木漏れ日が差し込んできた。上を見上げると、ガラスの天井越しに青空と木々の緑。歴史のあるまちだけど、あたらしいことに出会えるから、いつも銀座はわくわくする。はやくみんなを案内したいな。

MTR-618